第25回日本放射光学会年会　放射光科学合同シンポジウムを終えて

実行委員長　平井康晴　（九州シンクロトロン光研究センター）

第25回日本放射光学会年会　放射光科学合同シンポジウムは，佐賀県鳥栖市の市民文化会館　中央公民館に於いて2012年１月６日から９日の４日間にわたり開催されました。東日本大震災による被災と復興，国内外の厳しい経済環境と安定化への試みなど不透明感に満ちた状況の中で，今回どれだけの参加者数になるのか企業展示数を含めて大変気をもみました。結果として参加者594名，企業展示49社となり，盛況裡に年会　シンポジウムを終えることができました。ご参集いただいた皆様に感謝申し上げます。以下にその内容の要点，感想等をまとめました。

まず，準備段階で会場候補の下見に走り回りました。三室程度の講演会場，百数十件の同時発表をこなせるポスター会場，40～50件の展示が可能な企業展示会場，数百人の懇親会会場などを満たす解を求めて数箇所の候補地を回り，鳥栖市民文化会館　中央公民館での開催をお願いすることにしました。鳥栖市長はじめ，市役所の皆様，佐賀県庁の関係者の皆様に全面的な協力をいただけたのは大変有難いことでした。

年会　シンポジウムの特別講演では，まず九州国立博物館の今津節生先生から「博物館における文化財の科学調査」と題して，X 線 CT 法を用いた阿修羅像の診断等に関する大変興味深い研究成果をご紹介いただきました。次いで，東北大学の山田和芳先生には「物質科学における量子ビームの協奏　競争的利用の未来」と題する講演をいただき，そこでは放射光，および中性子ビーム等の量子ビームをプローブとした磁性と電子伝導現象等に関する最先端の研究が述べられました。いずれのご講演も本年会　シンポジウムに大変相応しい内容であったと思います。

企画講演は，当初８件の応募がありましたが，最終的にはプログラム委員会の岡島敏浩委員長の判断で「3 GeV ERL/XFEL O 計画の現状と ERL サイエンスの展開」，「放射光を利用した金属水素化物研究のフロンティア」，「産業分野　地域課題における放射光利用の新展開」，および「動き始めた X 線自由電子レーザー施設 SACLA」の４件に絞って行なわれました。いずれの企画も時宜に適った内容でした。大きな会場（市民文化会館ホール）で行なわれたため７日の午前中はやや寒くて申し訳なかったのですが，議論の盛り上がりとともに熱気溢れる状況 Gとなりホットした次第です。

オーラルセッションは97件，ポスターセッションは275件（合計372件）で，オーラルセッションは昨年度より13件多くなりましたが，各会場とも盛況でした。また，ポスター発表会場とオーラル発表会場は若干離れた場所となりましたが，企業展示コーナーを通って行くようにしたことで参加者が企業展示コーナーに立ち寄ることができ，企業の方からも概ね好評をいただきました。その企業展示は当初40社程度を考えていましたが，組織委員会の木村滋委員長の活躍で会場一杯の49社に達し，その中に地元企業も加わっていただくことが出来ました。

さて，懇親会場は幸い300名以上収容できる結婚式場を借り切ることが出来ました。当日の参加者は320名と大盛況でした。鏡開きではサガン鳥栖のハッピを着用していただこうと思ったのですが，都合で急遽，九州新幹線の新鳥栖駅開業祝いのハッピ着用となりました。このハッピは鉄

写真 P　年会　シンポジウムポスター

写真 Q　オーラル発表（C 会場）

(C) 2012 The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research

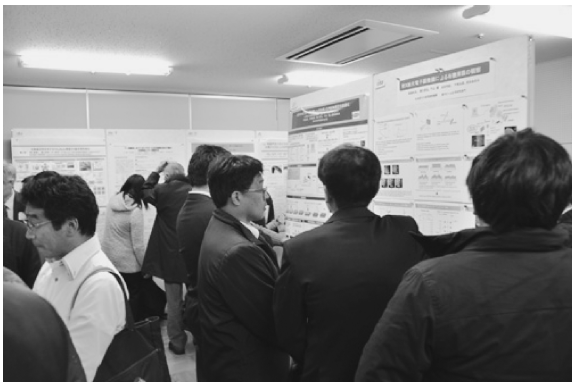

写真 R 盛況なポスター発表会場

写真 T 懇親会での鏡開き

写真 S 賑わう企業展示コーナー

写真 U 懇親会での乾杯風景

道ファンには垂涎の的となったようでした。料理はビールグラス等を置けるトレーに盛られており，片手が自由になるので，美味しいご馳走の多いことと併せて好評のようでした。また，学会奨励賞受賞者の元気な挨拶にも皆さん大変盛り上がっていました。最後に次回の年会　シンポジウムをお世話くださる竹田美和実行委員長が，名古屋での再会をアピールされました。

また，年会　シンポジウムにあわせて市民公開講座「放射光で解き明かす太陽系と地球の謎」を開催し，約180名の皆様に参加頂きました。最初に鳥栖市の橋本康志市長の挨拶をいただきました。次に，水木純一郎会長が「何でもござれの放射光－ナノの世界から宇宙まで－」と題して講演をされました。放射光利用が暮らしの中で役に立っていることを具体的な例をもとに大変分りやすく示されたと思います。引き続き，北海道大学の圦本尚義先生より「最先端分析で挑む小惑星探査機はやぶさ採取試料の解析」，愛媛大学の入舩徹男先生より「放射光と新しいダイヤモンドで拓く地球深部の科学」と題する講演をいただきました。参加者からは大変好評をいただきましたが，ある市民の方は参加されるにあたって「学会の講演会に本当に我々が聞きに行っても良いのですか G」と確認されたそうです。「市民公開講座」を「新春科学講座」などの親しみやすい名称に変えてみても良いのかもしれないと思いました。なお，この市民公開講座の様子は，ケーブルテレビ「はっぴとすビジョン」で1月10日に放送されました（九州シンクロトロン光研究センターのホームページ http://www.saga-ls.jp/からリンクされています）。

さらに年会　シンポジウムにあわせて，初日午後には九州シンクロトロン光研究センター（SAGA Light Source）の施設見学会を行ない，119名の方が自由見学を楽しまれました。

以上，大変盛況のうちに年会　シンポジウムを終えることが出来ました。ご尽力いただいた鳥栖市，佐賀県の関係者の皆様，学会事務局，実行委員会，プログラム委員会，組織委員会，及びご協力いただきました各方面の方々に厚くお礼申し上げます。実行委員会に関しては，開催までに三回の実行委員会を行いましたが，小林英一副委員長と委員各位の多大な貢献で成し遂げられたことを付記しておきます。来年の名古屋での年会　シンポジウムが盛会であることを期待しています。